

予報期間 6月15日から6月21日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 17日から18日にかけて、日本の南に高気圧が張り出し、北日本を気圧の谷が通過する。
- 19日から21日にかけて、高気圧は日本の東へ移動し、ゆっくり東進する。

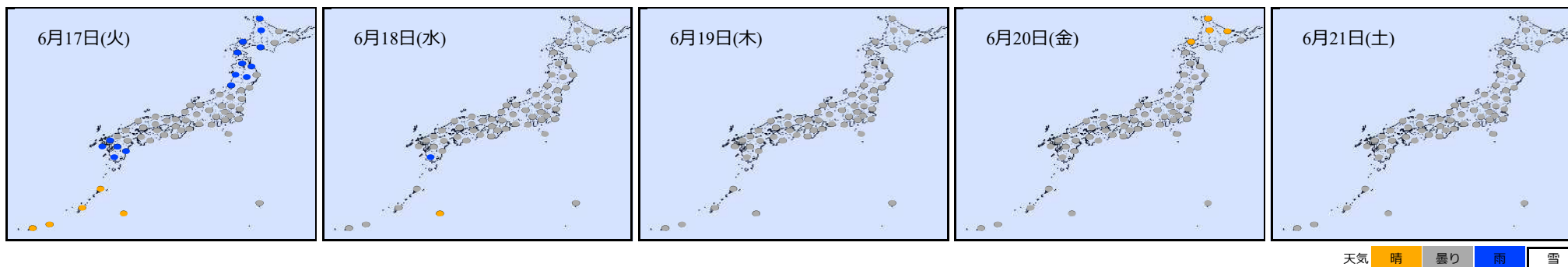
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 全国的に気温が高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

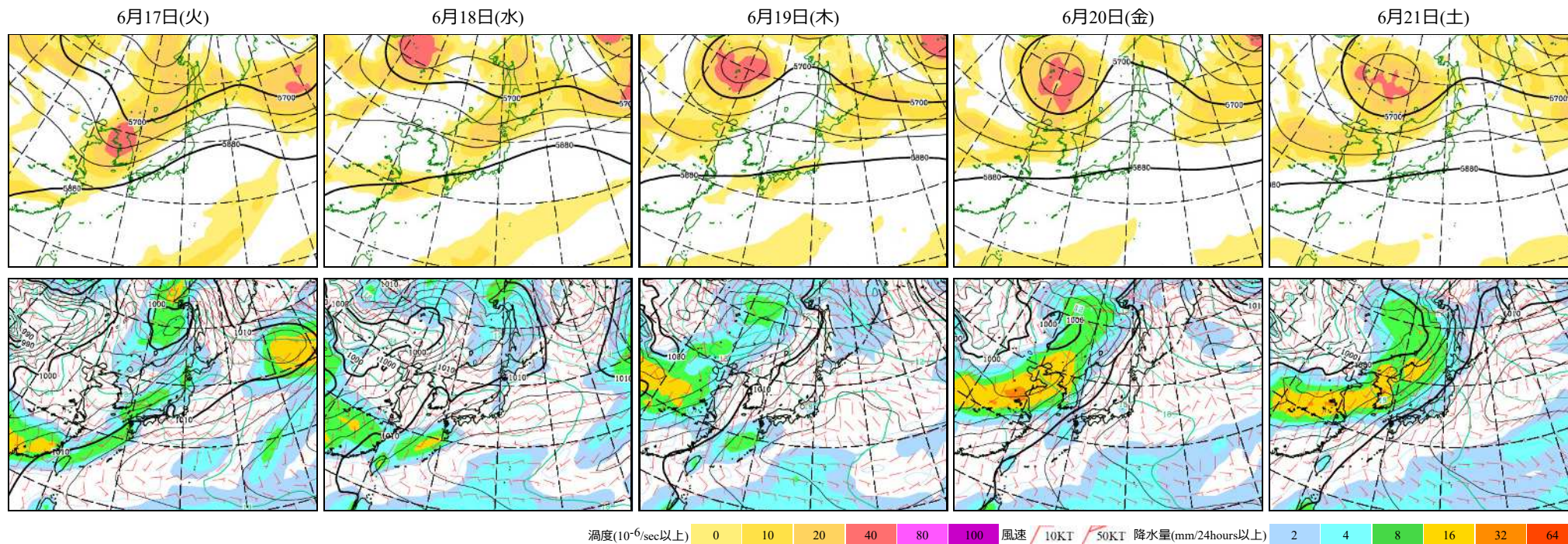
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

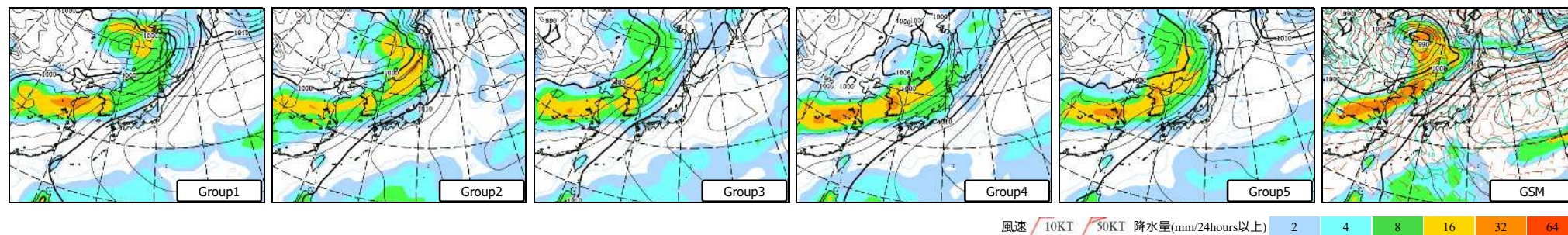


- 北日本は、雲が広がりやすく、17日は雨の降る所がある。
- 東日本は、雲が広がりやすい。
- 西日本は、雲が広がりやすく、17日から18日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、晴れまたは曇りとなる。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月21日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、17日から18日にかけて日本付近の高度がやや下がった。19日以降は中国東北区のトラフの動きが遅くなり、北日本を進むリッジが強まった。地上の気圧配置の予想は、19日以降は日本の東の高気圧が北に張り出す予想になった。
- 各モデルともに、19日以降に北日本を進むリッジが強まり、東西の流れが遅くなる傾向になった。初期値変わりは見られるが、モデル間の差は比較的小さい。
- NCEPは、21日に小笠原諸島付近に低気圧を予想するが、ENSには同様の予想をするメンバーはない。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。